

保健だより



平成30年3月5日(月) 練馬区立石神井南中学校 保健室 NO.11

寒かった冬が終わり、暖かな日射しと共に春がやってこようとしています。
卒業・進級の節目となるこの時期は、これからの目標や夢を思い描く時でもあります。
「～にチャレンジしてみたい」「～できるようにになりたい」という前向きな気持ちを大切に、
“なりたい自分になる”ための日々を一生懸命に過ごしてほしいと思います。
そして、この時期のみんなにぜひおすすめしたいこと。それは、普段はなかなか口にできない感謝の気持ちを伝えることです。今の自分があるのは、自分の力だけではないはず。これまでの自分を振り返り、気持ちを新たに走り出す前の今がチャンスです。どうしても言葉で伝えられない時には、行動で表せるといいですね。



1年間の保健室来室状況(～2月28日まで)

ケガで利用した人

230人

病気で利用した人

588人

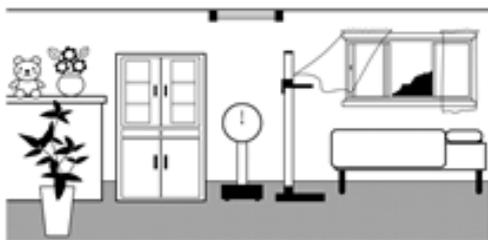
来室理由 TOP3<外科>

1. すり傷
2. ねんざ・突き指
3. 打撲



来室理由 TOP3<内科>

1. 腹痛
2. 頭痛
3. 気持ち悪い



1番流行した感染症は・・・インフルエンザ(B型)

インフルエンザは1月中旬から流行が始まり、
2学年で2日間の学年閉鎖を行いました。

エルジービーティー

LGBT ってなんだろう？

～セクシャルマイリティを知ることからはじめよう～

LGBT という言葉を聞いたことがありますか？

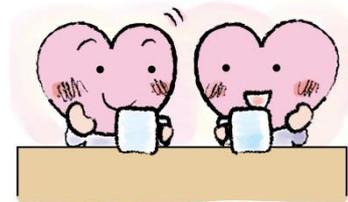
下記の4つの言葉の頭文字をとり、LGBT といいます。

L・・・レズビアン（同性を好きになる女性）

G・・・ゲイ（同性を好きになる男性）

B・・・バイセクシャル（同性を好きになることも異性を好きになることもある人）

T・・・トランスジェンダー（身体の性別と違う性別を生きる、生きたいと望む人）



LGBT の人々は社会の中では少数派なので、

“セクシャル（性的）マイノリティ（少数派）” という言われ方をします。



LGBT の人は、日本国内に**約7.6%、約13人に1人**の割合でいると言われています。

（電通ダイバーシティラボ「LGBT 調査2015」より）

これは、左利きの人やAB型の人の割合とほぼ同じ割合です。

LGBT は決して特別なことではありません。人は多数派の意見を「正しい」、

少数派の意見を「おかしい、間違っている」と思いがちです。周囲の心ない

偏見から一人で抱え込んで辛い思いをしている人がみなさんの周りにもいるかもしれません。



誰もが自分らしく生きられる社会を目指して、国や自治体、企業も動き始めています。

2015年に渋谷区ではパートナーシップ条例（正式名称：男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例）が成立し、同姓のカップルに対し、結婚に準じる関係を認める証明書を発行することができるようになりました。

思春期であるみなさんは、周りとの「違い」や「差」にとっても敏感です。

そして、自分だけ違うということを恐れたり、不安になったりします。

けれど、人は“みんな違ってみんないい”ということを忘れないでくださいね。

顔や体型、性格がみんなそれぞれ違うように、性も違って当たり前。人と違うことはおかしいことではありません。誰を好きになってもいいし、自分が自分らしくいられることが1番です。



6色のレインボーカラーは性の多様性を表しており、国際的にLGBTのシンボルカラーとしてまた、支援や連帯の気持ちを示すカラーとして広く認識されています。